

さ ざ ん か

第 104 号、2010 年 7 月

バカみたいな豪雨のあとは、アホみたいな暑さがやってきました。どちらも、極端であり、やはり地球環境の変化なのでしょう。私の記憶では、昔は気温が摂氏 35 度を超えると全国ニュースになっていたような気もするのですが。摂氏 40 度近い気温は、信じられない感じです。緑多き日本列島に住んでいて良かったですねえ。砂漠の民の大変さのほんの一部ですが感じるすることができます。暑くても緑陰もなにもないのだから、大変でしょう。水もそこいらにあるわけでもないし。

気候は、少々極端になりつつあるものの、それでも温帯モンスーン地帯に生まれた国があることはとても幸運でした。メリハリのある四季と山と海と緑に恵まれた国は、世界を見渡してもそうそうありません。大陸と繋がっていなかった不運よりも、干渉されにくかった幸運のほうが遥かに大きいようですね。200 年以上も鎖国をすることができたのも、島国ゆえのことでしょう。島国礼賛。種の混血も少なかったし。

暑さはまだまだ続きます。毎日熱中症と水難で亡くなった人の記事が新聞に出ています。「死ぬほど暑い」ことは比喩ではなくております。みなさま、くれぐれも熱中症（お年寄り）と水の事故（子供達）に気をつけて、このクソ暑い夏をお過ごし下さい。

俳句

西屋敷喜美子

リハビリの 心のこもる 梅雨晴間

終焉の 待つ身の哀し 梅雨さ中

魂も 身もおとろへて 虎が雨

短歌

瀬戸好子

雨音に 瞼とじれば 海の色 広がりゆく 眠りの中に

二部屋を 隔てても なお聞こえ来る 難聴の夫 テレビ見るらし

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

県立北薩病院の基本方針

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
 - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
 - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
 - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
-
-

病院からのお知らせ

- * 7月から当院はDPC対象病院となり入院、外来のシステムが若干変わります。具体的には、主として長期入院が困難になります。そのかわり、リハビリテーション中心の亜急性期病床などの設定がありますので、それらをご利用できると思います。
- * 病院内では、全ての方にマスク着用をお願いしておりましたが、とりあえず4月から義務付けは解除いたしました。可能な方はマスク着用を継続下さい。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかれば予防の治療を開始した方も

おられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

- * MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

*

農にいそしむ自分を省り見て 別府政隆

私の生家は溝辺空港より西へ凡そ 30 キロ、観音滝公園の近くに位置する。高台の畑地帯に 80 数戸の民家がある。もの静かで、のどかな畑地帯の集落で私は誕生した。今から 67、8 年前、私の両親は日毎畑仕事に精をだしていた。朝に夕に頑張ってもうだつが上がらないばかりか、難儀をしていたようです。

それを目の当たりに育った自分を思い出しています。当時は車はなく、機械もなく、全て手作業の時代だけに、畑作物にとっては収入が少ないばかりか、実に難しい、ただ疲労のみが襲ってくるそんな時、夜は両親の肩タタキをしていた。

そんな両親をみて、小学校三年生の頃だったと思う。初めて手伝ったことが昨日のことのように思い出しています。

時の流れは早いものです。両親も 14 年前に他界した。私は会社勤めをしながら、農業を副業として従事して来た。現在、妻と二人暮らし、年金生活しながら、田圃 50 アール、畑 10 アール、ひそひそと生活しているが、農業とは実に難しい。何年たっても稽古がいかずです。今年こそはと思っても、気候条件に左右されます。日照不足、風雨、積雪、台風、旱魃等の被害は、甚大です。これを繰り返し乍ら、農民はいき続けているのです。子供の為にも生きることの楽しみを夢見ながら、併し今、疑問に思ふ事もあります。今の世代の若者達は、故郷を捨て、親を捨てる現在である。田舎の財産はいらないとハッキリしているのです。

私の集落も空き家が大半です。ましては、子供がいるにも拘わらず、独居老人が少ないのです。これらを考える時、今後の農業は、否、年寄りはどうなるのだろうか、考えずにはいられない。併し、自分が生きている限りは妻と二人で頑張っていこう。あまり考えずに、のんびりと暮らすことにしよう。

締め切りのない原稿 カラーマン（とその女）

締め切りのない原稿は原稿ではないという。そのうち書くから、そのうち書くから、で結局は完成しないままで書かないことが多いからだろう。中には、締め切りがあろうとなかろうと文章を書きたくて仕方がない人もいるだろうから、そういう人にとっては締め切りがなくとも立派に原稿は原稿である。

（日記とか、日録とかつけている人は、締め切りがないからいいわけね。でも日記とかは原稿とは云わないから、この話とはちょっと違うのかしらん）

それでも、やはり人にはこの「締め切り」というか、原稿の場合はそうだけど、そういう類の「ケジメ」としての締め切りは必要なのであろう。

そういう「ケジメ」の要素の中でもっとも大きいというか決定的な要素は「時間」である。当たり前だが締め切りとは時間の設定なのである。「時の流れ」は誰にでも操作できないもの、おそらく神様にもできないものである。

（時の流れとか、人生の無常とか、大昔から人々は嘆き続けているといえそうなものね。洋の東西と問わず。あるいは文明の発達度にもかかわらず）

「時間」は決定的である。大学受験に限らないが、殆どの試験は「時間」との勝負である。少々難しい入試の数学も、時間をたとえば丸 1 日使うとか云う風に、たっぷり考える時間があれば大概の人は解答可能であらう。それを入試の限られた数十分で解けるかどうかを競うのが、受験である。できるかできないか、ということはある限られた「時間」内にできるかできないか、と云うことが問われているのである。したがって、そこには当然受験のテクニックなるものも入り込む余地が出てくる。小器用な能力が求められるであらう。本質を理解するかどうか、ではなく、いかに時間内に解答としての体裁を整えるか、それが勝負だ。受験生諸君、頑張れ。

（でも、せめて青春時代は 30 年くらいは欲しい気がするなあ。いつまでも若いままで居たいと云う贅沢はいわないけど、あまりにも早く駆け抜けすぎた気がするわ。青春のときが 30 年もあれば・・・）

人生そのものも云ってみれば、もろ時間との勝負である。人生 80 年として、この限られた 80 年の人生の中でいかに勝負をするか、ということだろう。一人だけ、時間に許されて高校生を 10 年やってよいのであれば（もちろんその 10 年は他の人の 3 年に相当するのである）、たいがいの大学受験は簡単にこなせるだろう。あるいは、素晴らしい青春時代をすごし、多くの恋ができ、スポーツを堪能できるであらう。

だが 18 歳は生涯に 1 回しかこないのだ。19 歳も 1 回、20 歳も 1 回である。あるいは、

人生が 200 年あれば、と思ったりもするがそれはそれで 200 年と云う締め切りがあり、結局はおなじことだ。

覆水盆にかえらず。そんな当たり前の諺だが、よくよく考えるととてもは恐ろしいことを云っている。こぼれた水はすくってまた戻せばよいが、人生は二度とは戻せない。

(1 回きりだからこそ意味があるのだ、とは分かるけどねえ。一期一会もね。でも、あの時、あの場面をもう一度やりなおせるのなら、今度はへまはしないのだけどなんて考えてしまおうわ。)

時の流れは恐ろしい。人生は短い、人生の目的はなんだろう、何のために、誰のために生きているのだろう、とと思っている間にも容赦なく時は流れていく。

(ずっとそんな事を考えながら、気がついたら死んでいた、なんてこともあるでしょうね。)

立派な原稿を書いても、締め切りに間に合わなければ原稿はなかったのと同じことになってしまう。言葉を換えると、締め切りに間に合わせると云う結果が大切なのだ。

勿論、誰にも見せない原稿と云うのもあるだろう。他人に評価してもらわなくても構わない、自分の原稿は自分の原稿なのであって書くことに意味があるのだ、といういきかたもあるだろう。自己満足の世界は、それなりに立派な世界なのかもしれない。

それでも。やはり、人間は他人の評価があって自分がある、という現実がある。勉強が好きで、一生勉強だけして満足できる人間は少ない。勉強が好きで、しかも勉強ができるということの評価が必要だ。良い大学に進学して、良い研究をして、良い就職をして、良い結婚をして、良い家庭を築くことが良い人生に繋がることが多い。イチローも誰にも評価されないところでは、バットを振り続けないだろうし、32 億円の年収もなかったであろう。そのイチローでさえ、もうすぐ現役選手としての締め切りが迫っていることは間違いない。

時間の締め切りは平等である。誰もが死ぬ。江戸時代の人間はすべて生命の締め切りが来て、この世には誰も生き残っていない。日本人は連綿と日本列島に住み続けているが、江戸時代と現代に住んでいる人々は総入れ替えしており、或る意味まったく別の国だともいえる。今の日本人が、現代人 90%、江戸人 10%というすみわけではないのだ。

(そういえば、江戸時代と現代では人々の考えも生活も全然違うのに同じニッポンであるのは不思議だわね。ニッポン民族が住み続けていることに意味があるとしたら、やはりニッポン列島はニッポン人のものだという認識が必要なのかも知れないわね。日本列島の住民がみんな朝鮮人かもしくは中国人であるとすれば、それはもはやニッポン国ではないのだわ)

人生の締め切りの中で、いかに自らの原稿を完成させるか。原稿を書き直すことは難しい。一度、書き間違えると原稿の本来の趣旨と違う主張になってしまうことも多い。こんなはずではなかったのだが。俺の書きたいことは、こんなことではなかったのに。

それでも時間が過ぎ、人は自らの原稿を書き続けなければならないだろう。原稿の終盤で、いかに上手く原稿を完成させるか。大逆転のクライマックスはあるのか、どうか。

子供達の原稿はまだまだ白紙の部分が多い。どんな原稿を書くのか、限らない可能性もあるし、不運にも限られた枚数しかないこともあるだろう。

(原稿の素材は、大体、恋か、お金か、権力か、名誉か、出世か、家族か、芸術か、人生そのものか、まあ、限られてはいるわねえ。まあ、一言で言えば、それらに共通するものは夢=欲望をいかにかなえるかということになるのかしら。夢は褒められ、欲望はけなされるけど)

老人は……。もう、締め切りが近いが、残された原稿枚数も少ない、はずだ。残りの数枚の原稿に、最後の締めくくりを立派に綴ることを期待したい。時には、これまでの原稿を読み直しながら。あるいは、締め切りに間に合わないこともあるかもしれない。未完の原稿もまた、それなりに価値がある。(のだろう)

日本農業の知識：知ってましたあ？

ねぎ生産量：世界1位

ほうれん草：世界3位

みかん類：世界4位

キャベツ：世界5位

いちご、きゅうり：世界6位

「日本は世界5位の農業大国」 浅川芳裕著 : 講談社+α文庫より

編集後記

暑い。誰がなんと云おうが暑い。暑すぎる。早く太陽エネルギーが全て冷房に換えることができるようにならないでしょうか。暑ければ暑いほど、涼しく過ごすことができる。今は、化石エネルギーに頼っているから、涼しくするためには石油などを燃やさなければならぬから、節電が必要なのでしょうが。

それはともかく、また夏がやってきました。想像の世界ですが、あの昭和20年8月の過酷な夏は、とてつもなく暑い夏だったのでしょね。(KT)